

「病院選びのポイント」アンケートから見えるもの

What is visible from a "point of hospital selection" questionnaire

○堀田敬子・松本亜樹子

HORITA Takako, MATSUMOTO Akiko

NPO 法人 Fine

Nonprofit organization FINE (Fertility Information Network)

Key words:不妊治療、病院選び、納得のいく治療

: Infertility treatment, hospital selection, satisfactory medical treatment

目的

世界中で患者数が拡大している不妊症。日本でも6組に1組の夫婦が不妊の検査や治療を受けているといわれており(1)、さらに不妊治療を行う施設も2011年では588施設に上る(2)。これは米国の500件弱、中国の約300件を上回る数値である(3)。多くの施設があるということは、患者にとって恵まれた環境かもしれないが、選択肢が多くなりすぎ転院を繰り返すことも珍しくない。転院の度に必要となる治療前の各種検査に費用や時間を費やすことも多く、高額医療を選択し、加齢に伴う卵巣機能の低下と戦う不妊当事者からすればリスクの大きいことである。にもかかわらず転院を繰り返す理由はどこにあるのか。また1度も転院をせずに治療を終える人もいる。その違いはいったい何なのか。そのことを明らかにするべく、今回は「どうする?教えて!病院選びのポイント」としてHP上でアンケートを実施。集まった不妊治療経験者の生の声から転院の現状を明らかにし、課題解決のヒントを得、治療環境のさらなる向上を目的とした。

方法

不妊治療の現状と課題の抽出においては、厚生労働省の発表のデータや日本産婦人科学会の調査結果(2)を参考にするとともに、不妊当事者の自助団体であるNPO法人Fine(ファイン)のHPにアンケートフォーマットを設置、Fineの会員のみならず広く一般不妊当事者へ協力を促してアンケートを実施した。調査期間は2011年10月6日~2012年7月5日まで。

結果

アンケートの有効回答は560人、回答者の属性は30代が7割、性別は女性554人、男性はわずか6人であった。設問は、不妊治療の際、病院の情報収集方法や重視する点、通院先の満足度とその理由、改善してほしい点、また転院の理由や転院の回数など「病院選び」に関する設問17問と、調査協力者のプロフィールなどを加え、合計25問の内容とした。その結果、患者が知りたい病院情報は「治療内容」、選択の決め手は「通いやすさ」がトップであった。現在または最後に通った病院に満足しているかの問いに実に8割の人が満足していると回答している。一方で、転院の経験

または検討したことがあるのは7割に上り、転院回数も2回から多い人で6回という人もいた。

考察

転院を繰り返す理由は妊娠しなかったという以外にあるのかという素朴な疑問から、当事者の転院の意識を確認するために行った調査であるが、その結果は患者と医療者の意識のギャップを再確認するものとなった。転院を考えたきっかけを問う設問への回答は、選択式で1~15までの選択肢の複数回答を可としたにもかかわらず、「妊娠しなかったから」を理由に挙げたのは、半数にとどまった。「スタッフの対応が良くなかったから」「ここではできない治療を受けたかったから」などソフト面に関しての理由が上位を占めた。不妊当事者は妊娠する・しないにかかわらず、納得のいく治療を受けられたかどうかが大切であると感じていることが調査結果からうかがえる。納得感のない治療とは、コメントから「理解、説明、知識、コミュニケーションの不足」であることがわかる。病院の選択は言うまでもなく自己責任となるが、アンケートからは不妊当事者自身が「何を大切にしたいか=価値観」を初診時にはよく理解していなかったために転院を繰り返したケースも見られた。「転院した結果気が付いた」とコメントにもあるように、複数回転院した場合、病院を選ぶうえで重視する内容が変わっていくことも多い。治療に際しての価値観の再確認や事前の情報共有により、転院のリスク回避も可能になるのではと考える。同時に医療関係者側にとっても患者の大切にしたい価値観を知ることがさらなる施設整備に役立つのではと考える。NPO法人Fineではこの調査結果を、広く社会に発信することで日本の不妊治療環境向上の一助となるべく、今後も活動をしていく所存である。

参考資料

- (1)国立社会保障・人口問題研究所調べ
- (2)日本産科婦人科学会「倫理委員会登録・調査小委員会報告(体外受精・胚移植などの臨床実施成績および登録施設名)
- (3)Marketdata Enterprises「Assisted reproductive technology in Europe,2007」